
新理事会における越田会長挨拶

本協会会長 越 田 弘 志

平 15 . 7 . 1

バブル経済が崩壊し10数年経過いたしました。株式市場は最悪期は脱しつつあるものの、依然として厳しい状況にあります。

証券市場は、改めて言うまでもなく、投資家の資産運用の場、次代を担う成長産業への資金供給の場、また市場メカニズムに基づいた効率的な資金配分の場として、我が国経済において重要な役割を担っていますが、その本来果たすべき役割を十全に発揮できない状況にあります。

私は、今回証券業協会長に就任いたしました。第一に、私に課せられた最大の責務は、証券市場、なにかんずく株式市場の振興、活性化に努めることであると考えております。

政府においても貯蓄優遇から投資優遇へ方針の転換が行われ、国の政策としても、証券市場を活性化し、直接金融を中心とする金融システムの構築が大きな課題となっております。

奥本前協会長を始め業界関係者の長年の御努力により、株式、株式投信の税制については、税率の引き下げ、課税の仕組みの簡素化、損益通算対象の拡大が行われ、投資優遇へという税制が実現いたしました。また、日本版401(k)ETF、証券仲介業制度、ラップ口座、ディスクロージャーなど数度にわたる制度改正により、証券市場拡大の基盤整備が整いつつあります。

私は、この難局に当たり、喫緊の課題である株式市場の振興に証券界全体で取り組むとともに、政府与党や上場企業などに対し、株式投資の魅力向上のための諸施策の実施を強く働きかけていく所存です。

第二に、個人金融資産に占める有価証券の比率が1割にとどまっている中で、個人投資家にとって魅力ある株式市場、わかりやすい株式市場、参加しやすい株式市場作りも重要な課題であります。

先般、個人投資家育成対策会議において、個人投資家の幅広い証券市場参加を促すための方策がとりまとめられました。報告書に盛り込まれた新証券税制のPR活動や啓発活動、証券市場が投資家にとってより身近な存在となるような諸施策を速やかに実施していきたいと考えております。

第三に、証券市場、証券会社に対する信頼の向上も不可欠であり、業界を挙げて投資家からの信頼強化に真摯に取り組んでまいります。

第四に、東京市場の国際的な地位向上のため、証券市場の効率化、国際競争力の強化を強力に推進していく必要があると考えています。

特に、証券決済制度の改革は、厳しい経営環境が続く中、金融証券界にとって大きなプロジェクトになりますが、着実に改革の実現を図っていきたいと考えております。

証券市場にとって厳しい時期に図らずも証券業協会長に就任いたしました。私は証券市場発展のため微力ながら全力を尽くす所存であり、皆さまの御支援、御助言を賜りますよう、お願い申し上げます。

以上